

地域との交流から 札幌センター・帯広センターの行事

「国際交流会in浦河」(平成17年3月18日)

JICA帯広の技術研修員23名が日高地方浦河町を訪問し、地元の文化サークル「さぼてん」、「ウタリ文化保存会浦河支部」のメンバーなど地域の人々と交流した。

交流会では、研修員が自国の文化を紹介したほか、アイヌの伝統的な音楽や踊りを一緒に楽しむことで、お互いの文化に対する理解を深めた。

(国際協力部)



アイヌの伝統楽器ムックリの演奏を体験

「着つけ教室開催」(平成17年5月19日)

JICA札幌で午後7時と8時の2回にわけて行われ、モロッコ、ネパール、アフガニスタンなどからの母子保健衛生コースや、ブラジル、メキシコからの日系長期研修員など女性研修員、計17名が振り袖の着つけを習った。

着つけがだんだんきつくなるのに堪えて、色とりどりの着物を着せてもらい「わあ〜、きれい」と大喜びであった。(札幌国際センター)



北海道内の国際協力・国際交流団体から 地域の活動

北方圏センターウェブサイトの情報交換ページ「国際情報掲示板」から ここは小さな地球村、「札幌国際交流会館第5回会館祭り」開催

札幌国際交流会館に居住する館生と地域住民等が共同企画し、イベントを通じ相互の理解と国際交流の促進を目的に毎年会館祭りを実施している。今年は2月27日(日)に、在館生及び外国人留学生90名、日本人学生40名、地域住民等180名、(独行)日本学生支援機構札幌支部職員5名、(財)日本国際教育支援協会札幌地区事務室職員4名の合計319名が参加した。

初めに開成式で実行委員長等が挨拶を行い、続いて祭りのメインである各国料理紹介を実施した。これは、館生が中心となり友人と協力しながら作った各国の料理を来場者に試食してもらうもので、中国・ウイグル自治区・台湾・タイ・モンゴル・韓国・インドネシアなど各国、9種類の料理を来場者に振る舞った。また、展示コーナーで各国文化展示及び館生が作った日本人形展示、会議室では館生が講師になり母国の文化紹介、受付ではスマトラ島沖地震・津波災害募金も行われた。茶道体験も来場者に好評であった。

メイン会場ではアトラクションが行われ、中国・韓国・インドネシア等の民族衣装紹介や伝統楽器の演奏、イベントの最後にはよさこいソーラン祭りでは有名な平岸天神チームによる迫力がある踊りが披露された。

(会館祭りは、17年度も実施するので是非ご参加ください)



民族衣装を紹介。韓国(左の人)と中国の少数民族の衣装の紹介



地元の平岸天神チームによる迫力ある「よさこいソーラン踊り」

札幌国際交流会館(所在地:札幌市豊平区豊平6条6丁目5-35
☎011-817-3615 地下鉄東豊線「学園前駅」下車2番出口より徒歩1分)
は、外国人留学生と日本人学生のための共同宿舎で、会館生活を通していろいろな国の学生が互いにコミュニケーションできる施設で、日本学生支援機構と札幌市が共同で設置している。

「北方圏講座」開催2題～(財)スウェーデン交流センター、北海道フィンランド協会とともに

北方圏諸国の産業経済や生活文化等に関する学習と最新の情報交換を図る場として各国、各界の講師にテーマを決めて講演してもらうので、17年度第1回目が5月23日(月)に、続いて第2回目が同25日(水)にそれぞれ北方圏センターの会議室、国際会議場で開催された。

23日は、(財)スウェーデン交流センターの通常総会にあわせて来道した駐日スウェーデン王国のミカエル・リンドストロム大使が「スウェーデンにおける女性の社会進出と少子化問題」として最近のスウェーデンの現状について話した。25日は、北海道フィンランド協会、在札幌フィンランド名誉領事館などの共催で、フィンランド・オウル市の前産業振興センター渉外担当マネージャーのセッポ・マキ氏が「フィンランド・オウル市の産学官連携の今」と題して同市の現状とフィンランドにおけるR&Dへの融資制度などについて紹介した。(調査研究部)